



瀬戸内企業ビジョン

Bridge : Communication & Technology



瀬戸内企業としての責任を果たすために

公共性の高い企業として、そして、地域の発展を支える企業として、
私たちは、持てる力を最大限に発揮して、責任を果たしていきます。



貴重なインフラを運営する企業として

本州四国連絡高速道路株式会社は、特殊法人である本州四国連絡橋公団の民営化に伴い、平成17年（2005年）10月1日に誕生しました。そして、業務を効率的に遂行するために、当社を中核として子会社3社よりなるJB本四高速グループを構成しています。

私たちJB本四高速グループは、世界最高水準の技術力を持って建設され、世界最大規模を誇る長大橋梁群であるこの本州四国連絡高速道路（以下「本四高速道路」という。）を適切に維持管理し、瀬戸内地域における交通の大動脈の役割を確実に果たしていくことを最大の使命としています。そしてSA・PAでの売店・レストランの運営のほか、これまで培ってきた橋梁技術を活用した事業や地域と連携した観光振興などを行っており、これらの仕事を通じて、お客様に喜ばれ、社会に貢献する企業を目指しているところです。

こうした業務を適切かつ円滑に行うため、5つの項目から成る「経営理念」と「経営理念」を実現するための社員の心構えとして、「行動規範」を定め、これらに対する社員の理解の深化と実践の徹底を図りつつ、日々の業務の充実に努めています。

瀬戸内企業ビジョンの実践

本四高速道路をご利用いただく皆様の期待と負託に応え、JB本四高速グループに課せられた使命を果たすため、今後のJB本四高速グループとしての取組の方向と実践の内容を明らかにすべく、2008年4月、この「瀬戸内企業ビジョン」を策定し、皆様にお示ししました。

このビジョンのとりまとめに当たっては、JB本四高速グループ社員一人一人が自ら考え、提案し、瀬戸内企業としての責任を果たすことができるような取組を実践していくことに重点を置きました。

「瀬戸内企業ビジョン」は、次の7つの柱により成り立っています。

- 1 お客様への安全、安心、快適なサービスの提供
- 2 200年以上の利用を目指した万全な維持管理
- 3 技術の活用
- 4 環境への取組
- 5 地域との協働
- 6 情報の発信
- 7 資産の有効活用

さらにこの7つの柱のもと、各事業別の事業内容について、具体的な活動計画を定めた中長期計画を策定し、本四高速道路の維持管理をより着実に実施するとともに、経営基盤の強化に努めています。

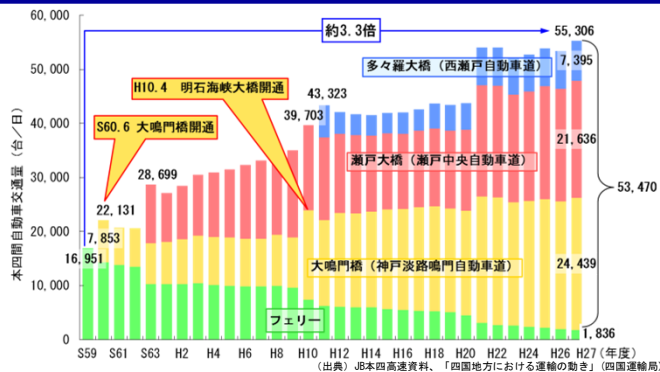
今後とも、JB本四高速グループを挙げて各事業に取り組み、安全・安心・快適なサービスを提供することにより、地域の発展に寄与することを目指します。



瀬戸内地域と私たち

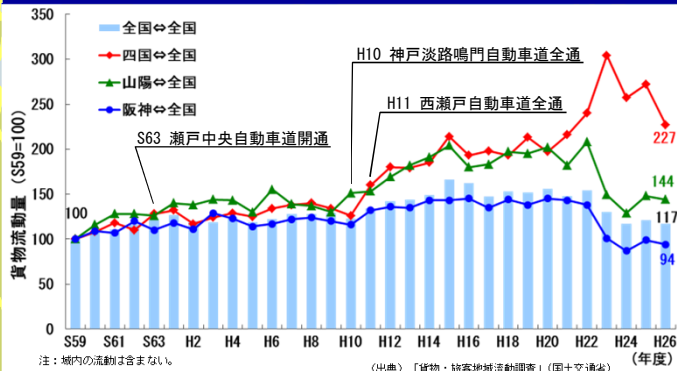
私たちは、本州と四国を結ぶ貴重なインフラの運営を担う、瀬戸内に立脚する企業として、地域の、そして幅広く社会の期待に応えてまいります。

本州四国間自動車交通量の変化



本州と四国間の交通量は、開通前に比べ、大幅に増加しました。そのうち、約9割を私たちの3ルートが担っています。

四国と全国間の自動車貨物流動量の推移



全国と四国間の貨物輸送量は、大幅に増加しました。

宇野・高松フェリー航路と瀬戸中央自動車道の
通行止め実績 (S63～H27年度)

宇野・高松フェリー航路			
計画便数 (往復)	欠航便数 (往復)	年平均欠航便数 (往復)	年平均欠航時間 (時間) (注)
968,571	6,867.0	245.3	62.1

瀬戸中央自動車道		
通行止回数 (回)	年平均通行止回数 (回)	年平均通行止時間 (時間)
50	1.8	13.3

(注) 年間欠航時間 = (年間時間数 / 年間計画便数) × 年間欠航便数 (出典) 四国運輸局

本州四国間の
安定した交通
が確保されて
います。



瀬戸中央自動車道

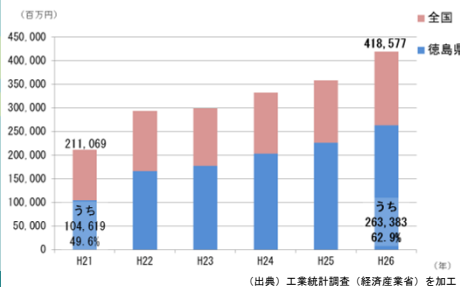


神戸淡路鳴門自動車道



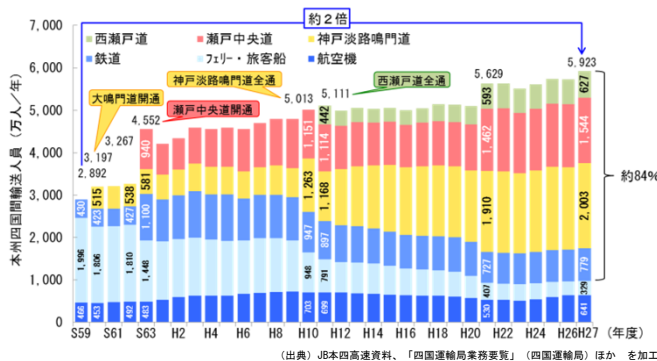
西瀬戸自動車道

LED出荷額(全国、徳島県)



地域の工業製品の出荷量も大きく伸びています。

四国と四国外との交流人口の推移



四国と四国外との交流人口も大幅に増加しました。そのうち、約84%を私たちの3ルートが担っています。

ビジョン：7つの柱

私たちは、瀬戸内に立脚する企業として、「経営理念」と「行動規範」に基づいて、7つの観点から瀬戸内企業としての活動を実践してまいります。

当社は、平成17年10月の民営化にあたり、業務を適切かつ円滑に行うため、「経営理念」とこれを実現するための社員の心構えとして「行動規範」を制定し、その実践に努めています。

経営理念

Bridge : Communication & Technology

私たちは、本州と四国を結ぶ世界に誇る橋を良好に保つことにより、人と物の交流と地域の連携を推進し、経済の発展と生活の向上に寄与します。
また、これまで培ってきた橋の建設、管理技術を活用して、広く社会に貢献します。

1. お客様に安全、安心、快適に利用していただけるよう、サービスの充実に努めます。
2. 200年以上の長期にわたり利用される橋をめざし、万全な維持管理に努めます。
3. 橋梁技術のフロントランナーとして、技術の継承・高度化を推進します。
4. 瀬戸内の美しい自然を大切にし、環境に配慮します。
5. 公正で効率的な運営により、経営の安定と成長をめざします。

行動規範

1. 経営理念の実現に向け、誇りと自信を持って挑戦します。
2. お客様の視点を大切に、お客様との対話に努めます。
3. 現場重視で、素早く決断し、課題を解決します。
4. 自立・自律の精神で仕事に臨み、創意工夫と自己研鑽に努めます。
5. 社員相互の信頼と理解を深め、明るく、風通しのよい職場をつくります。
6. 会社を支える気概を持ち、会社の発展をねがい、自らの幸せを築きます。



7つの柱：アウトライン

1 お客様への安全、安心、快適なサービスの提供

本四高速道路の特色である長大橋を含む道路施設を良好に保ち、お客様に安全・安心・快適なサービスを提供します。



2 200年以上の利用を目指した万全な維持管理

本四高速道路が200年以上、瀬戸内地域を一体化する基幹交通軸としての機能を確実に果たすため、アセットマネジメントの考え方を導入した体系的な予防保全により万全な維持管理に取り組みます。

3 技術の活用

橋梁技術のフロントランナーとして、瀬戸内地域をはじめとする国内外で、本四連絡橋の建設から維持管理で培った長大橋技術の活用を図ります。



4 環境への取組

瀬戸内の基幹インフラを担う企業として、自然と共生する社会の推進に努めるとともに、企業市民として、低炭素社会の実現や循環型社会の構築に向けた取組を推進します。

5 地域との協働

瀬戸内地域の活性化、集客力の向上等を図るため、関係地方公共団体、経済・観光等各種団体、大学等との連携を強化するとともに、地域を舞台とする各種活動に参画します。



6 情報の発信

本州と四国を結ぶ3ルートや沿線地域、近畿・中四国地方の魅力を、東京圏をはじめ広く全国に発信することにより、地域全体の認知度を高めます。同時に、企業情報の積極的な開示に努め、お客様やステークホルダーとの双方向のコミュニケーションを確立します。

7 資産の有効活用

管理する道路施設や関連施設を幅広く活用することにより、地域及び社会に広く貢献します。





 本四高速グループ

本州四国連絡高速道路株式会社
JBハイウェイサービス株式会社
株式会社ブリッジ・エンジニアリング
JBトールシステム株式会社